

**「野村日本ブランド株投資(通貨選択型)」「毎月分配型」の
2012年10月22日決算の分配金について**

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

「野村日本ブランド株投資(通貨選択型)」「毎月分配型」の2012年10月22日決算の分配金についてご案内いたします。

今回の決算において、基準価額の水準、為替ヘッジプレミアム/ヘッジコストの水準(「円コース」を除く)等を勘案し、「円コース」は30円から10円に、「豪ドルコース」は100円から80円に、「ブラジルリアルコース」は120円から100円に、「南アフリカランドコース」は70円から50円に分配金を引き下げることいたしました。

一方、「トルコリラコース」、「資源国通貨コース」、「アジア通貨コース」につきましては、基準価額の水準、為替ヘッジプレミアム/ヘッジコストの水準等を勘案し、前回決算の分配金水準から変更しませんでした。

上記4コースの分配金引き下げに関する詳細な説明は、次ページ以降をご参照ください。

分配金額と基準価額は下表の通りです。

【分配金】(1万口当たり、課税前)

ファンド	円コース (毎月分配型)	豪ドルコース (毎月分配型)	ブラジル リアルコース (毎月分配型)	南アフリカ ランドコース (毎月分配型)	トルコリラ コース (毎月分配型)	資源国通貨 コース (毎月分配型)	アジア通貨 コース (毎月分配型)
分配金額 (前回決算)	10円 (30円)	80円 (100円)	100円 (120円)	50円 (70円)	70円 (70円)	60円 (60円)	50円 (50円)
決算日の基準価額	8,982円	8,843円	6,108円	6,334円	5,785円	6,265円	6,741円
決算日の基準価額(分配金再投資) (前回決算)	9,797円 (9,736円)	11,934円 (11,783円)	9,896円 (9,703円)	9,000円 (9,183円)	8,255円 (8,083円)	7,408円 (7,376円)	7,723円 (7,537円)
分配金額設定来累計	885円	3,230円	4,600円	3,330円	2,890円	1,260円	1,050円

設定日:各コース(「資源国通貨コース」、「アジア通貨コース」を除く)は2009年4月23日、「資源国通貨コース」、「アジア通貨コース」は2011年1月17日
前回決算:2012年9月24日

基準価額(分配金再投資)とは、当初設定時より課税前分配金を再投資したものとして計算した価額です。したがって、実際のファンドは課税条件等によって受益者ごとに価額は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮しておりません。

・分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。

・分配金は投資信託説明書(交付目論見書)記載の「分配の方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

————— 上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。 —————

【「毎月分配型」の分配の方針】

原則、毎月22日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行ないます。

分配金額は、分配対象額の範囲で委託会社が決定するものとし、原則として配当等収益等を中心に安定分配を行ないます。ただし、基準価額水準等によっては売買益等が中心となる場合があります。また、毎年4月および10月の決算時には、基準価額水準等を勘案し、上記安定分配相当額のほか、分配対象額の範囲内で委託会社が決定する額を付加して分配する場合があります。

「原則として、配当等収益等を中心に安定分配を行なう」方針としていますが、これは、運用による収益が安定したものになることや基準価額が安定的に推移すること等を示唆するものではありません。また、基準価額の水準、運用の状況等によっては安定分配とならない場合があることにご留意下さい。

分配金は、投資信託説明書(交付目論見書)記載の「分配の方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

【分配金のお知らせ】

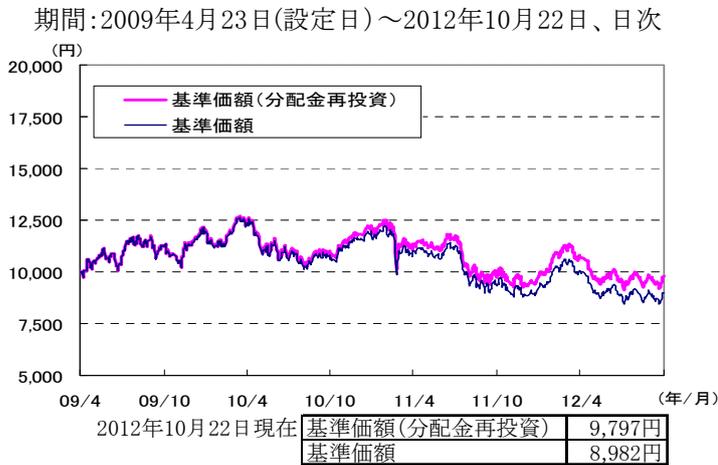
【基準価額の推移】

2012年10月22日の決算におきまして、分配金を引き下げた「円コース」、「豪ドルコース」、「ブラジルリアルコース」、「南アフリカランドコース」の決算後(分配落ち後)の基準価額は、「円コース」8,982円、「豪ドルコース」8,843円、「ブラジルリアルコース」6,108円、「南アフリカランドコース」6,334円となりました。

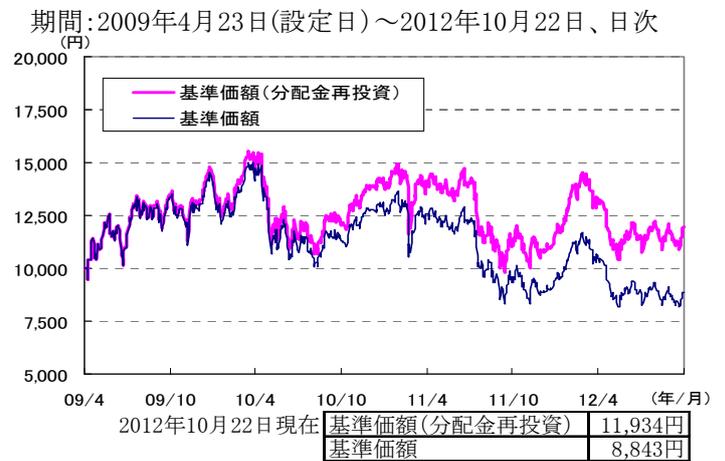
下記の基準価額の推移グラフを見ますと、基準価額は2012年3月頃から下落傾向で推移したことがわかります。2012年3月末を基準とする基準価額の騰落率は、「円コース」-14.7%、「豪ドルコース」-21.3%、「ブラジルリアルコース」-32.1%、「南アフリカランドコース」-29.7%となりました。

また、同期間において、分配金を加味した基準価額(分配金再投資)の騰落率は、「円コース」-12.9%、「豪ドルコース」-15.3%、「ブラジルリアルコース」-23.1%、「南アフリカランドコース」-24.3%となりました。

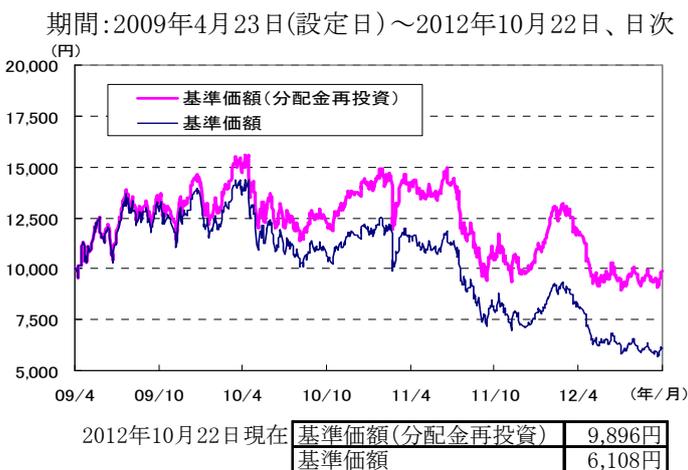
<円コース(毎月分配型)>



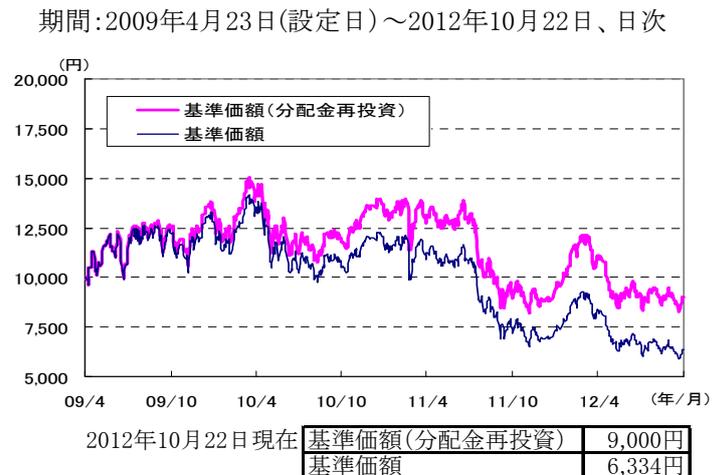
<豪ドルコース(毎月分配型)>



<ブラジルリアルコース(毎月分配型)>



<南アフリカランドコース(毎月分配型)>



基準価額(分配金再投資)とは、当初設定時より課税前分配金を再投資したものと計算した価額です。したがって、実際のファンドは課税条件等によって受益者ごとに価額は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮しておりません。

——— 上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。 ———

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料中の記載事項は、全て当資料作成以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、株式等の値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります。)ので基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

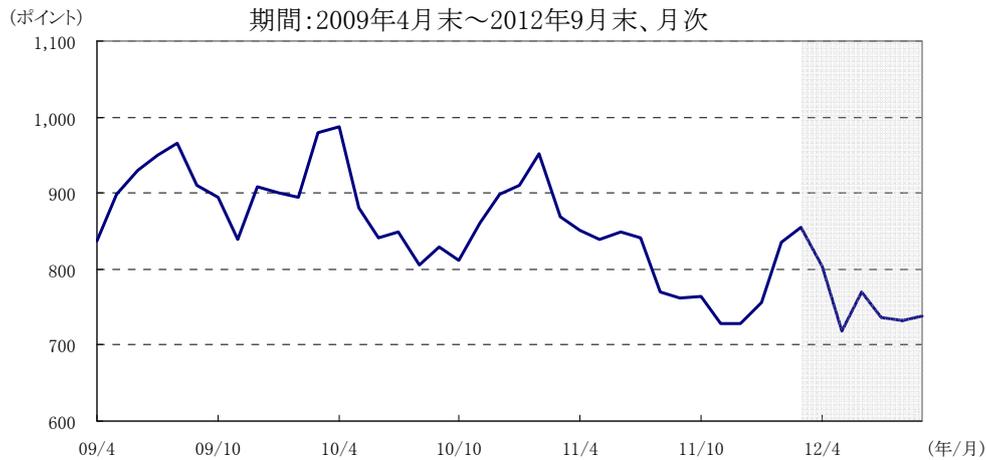
【分配金のお知らせ】

【ご参考:投資環境①】

《日本株式市場について》

日本の代表的な株式指数であるTOPIX(東証株価指数)の値動きを見ると、2012年3月以降下落傾向となっており、2012年5月以降については800ポイント台を下回る水準となりました。同年6月には、EU(欧州連合)首脳会議でスペインの金融機関支援について合意されたことなどが好感され、日本株式市場は上昇する場面もありました。しかし同年7月以降、欧州情勢をめぐる不透明感が一段と強まったことや中国の景気減速を懸念させる統計が相次いで発表されたことなどを背景に日本企業への影響が懸念され、下落しました。日本株式市場の下落は、ファンドの基準価額のマイナス要因となりました。

＜TOPIXの推移＞



(注) グラフの網掛けは、2012年3月末から2012年9月末の期間
(出所) ブルームバーグのデータに基づき野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

【分配金のお知らせ】

【ご参考:投資環境②】

《為替(対円レート)の推移》

今回の決算におきまして、分配金を引き下げた「豪ドルコース」、「ブラジルリアルコース」および「南アフリカランドコース」の為替(対円レート)の推移は次のとおりです(網掛けは2012年3月末以降)。

「豪ドル」、「ブラジルリアル」、「南アフリカランド」の為替(対円レート)は、2012年3月末以降概ね円高傾向で推移しており、同年9月末時点までの騰落率は、「豪ドル」-5.2%、「ブラジルリアル」-15.2%、「南アフリカランド」-12.0%となりました。為替レート下落が、基準価額のマイナス要因となりました。

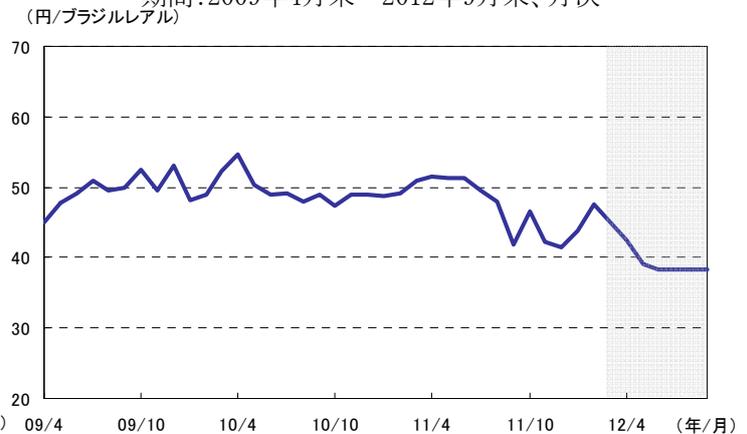
＜豪ドル＞

期間:2009年4月末～2012年9月末、月次



＜ブラジルリアル＞

期間:2009年4月末～2012年9月末、月次



＜南アフリカランド＞

期間:2009年4月末～2012年9月末、月次



(注) グラフの網掛けは、2012年3月末から2012年9月末の期間

(出所) ブルームバーグのデータに基づき野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

【分配金のお知らせ】

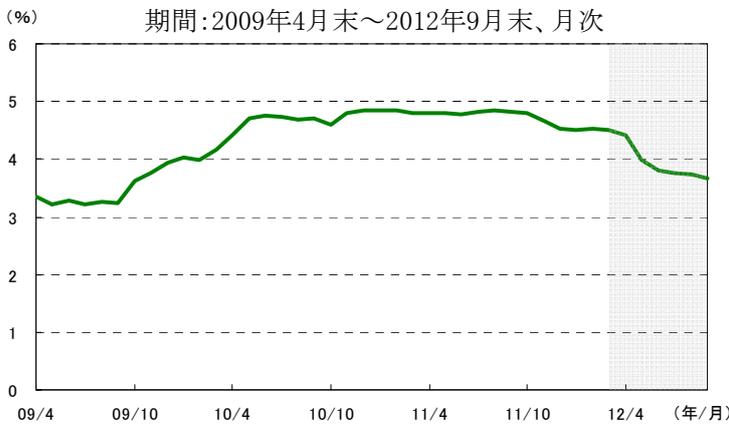
【ご参考:投資環境③】

《短期金利について》

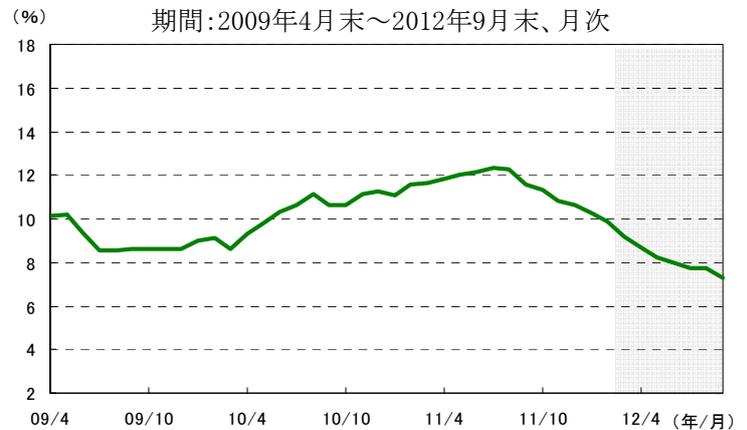
今回の決算におきまして、分配金を引き下げた「豪ドルコース」、「ブラジルリアルコース」および「南アフリカランドコース」の通貨の短期金利の推移は次のとおりです(網掛けは2012年3月末以降)。

「豪ドル」の短期金利は2011年2月末に4.8%を上回る水準まで上昇しましたが、その後は低下傾向となり2012年9月末は3.7%となりました。「ブラジルリアル」の短期金利は2011年7月末に12.3%を上回る水準まで上昇しましたが、その後は低下傾向となり2012年9月末は7.3%となりました。「南アフリカランド」の短期金利は「南アフリカランドコース」が設定された2009年4月末には8.7%でしたが、その後は低下傾向となり2012年9月末には5.0%となりました。短期金利の低下により、ファンドにおいて為替ヘッジプレミアムは減少しました。

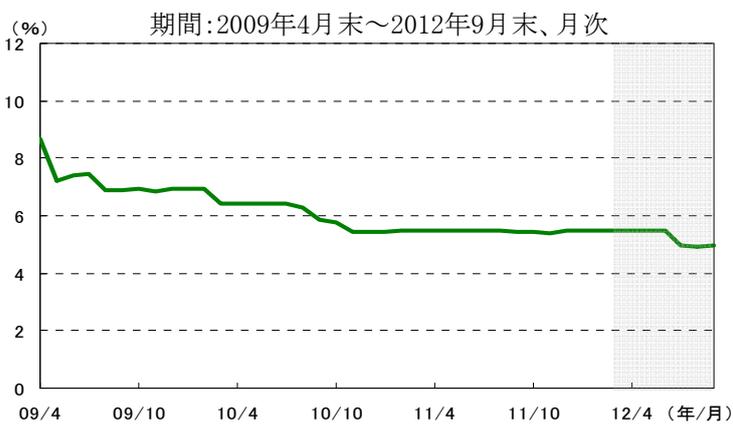
＜豪ドル＞



＜ブラジルリアル＞



＜南アフリカランド＞



(注) グラフの網掛けは、2012年3月末から2012年9月末の期間
(出所) ブルームバーグのデータに基づき野村アセットマネジメント作成

【各通貨の短期金利(現地通貨ベース、課税前)】

豪ドル:1ヵ月LIBOR、ブラジルリアル:CD(譲渡性預金証書)レート1ヵ月、南アフリカランド:ヨハネスブルグ・インターバンク・アグリド・レート1ヵ月

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

【分配金のお知らせ】

【ご参考:投資環境④】

《日本株式市場の動向と見通しと今後の投資方針》

日本経済は内需を中心に緩やかな回復の動きを続けていました。しかし、欧州経済に加え中国経済でも景気が減速しており、日本からの輸出が弱含みの動きを続けています。また、内需関連では復興需要が一巡し始めており、下支え効果が剥落してくると見込まれます。そのため、日本の景気動向は今年度後半にかけて一旦大きく減速する可能性が高いと考えられます。2012年10月1日に公表された日銀短観でも先行きの景気減速を織り込む動きを示しています。

現在、日本株式市場は欧州債務危機を背景とした世界景気の後退懸念から株価の低迷が続いています。しかし、各国政府による積極的な金融緩和策が続く中、米国経済の緩やかな成長やアジア地域などの新興国経済の回復を考慮すると、世界景気が腰折れする可能性は低く、徐々に持ち直していくと考えています。このような投資環境の下、組み入れにあたっては、世界の経済成長から恩恵を受ける日本企業の中から、「ものづくり力」、「技術・開発力」、「事業展開力」の視点で競争力を評価し、グローバルで高い競争力を持つ日本企業の株式「日本ブランド株」を選定し、株価下落で株式価値に比べて割安感が生じていると判断した企業に積極的に投資をしていく所存です。

《為替市場の動向と見通し》

新興国の為替相場は、2012年5月に欧州債務問題に伴うリスク回避の動きの中で大きく下落しましたが、それ以降は比較的落ち着いた状況が続いています。多くの国々が足元で景気減速対策として利下げを実施していますが、過度の通貨安やインフレ高進などの副作用を警戒しながらの慎重なものとなっています。

今回の決算におきまして、分配金を引き下げた「豪ドルコース」、「ブラジルリアルコース」および「南アフリカランドコース」の通貨の為替市場については、以下をご参照ください。

○豪州は、2012年10月初旬に利下げを行ないました。豪州準備銀行(中央銀行)は、主要輸出先である中国の経済成長が減速したほか、国内の資源投資や労働市場についても以前よりも慎重な見通しになっていることから、市場参加者の間では追加緩和の可能性もあると見られています。構造的に中国要因の悪化やそれによる資源価格への影響が不透明なことによる豪ドルの下落リスクが警戒される一方で、米国で追加の量的緩和がなされたこともあって、金利差取引(キャリートレード)に関連して、豪州の金利水準が他の先進国と比べてまだ高めであることや、欧州債務問題における直接的な影響が小さいことなどによる消去法的な豪ドル買いも見られています。

○ブラジルは、成長率が伸び悩み中で2011年から10回目の利下げを2012年10月中旬に実施し、政策金利を過去最低水準まで引き下げています。ただし既に5%強もの利下げを行なっていることから、市場参加者の間では、今後ブラジル中銀は単に利下げを行なうだけではなく、他の政策手段も含めた複合的な政策アプローチに変化していくと見られているようです。また、来年にかけて利下げが打ち止めとなることも想定されており、2013年に利上げまで進む可能性について、政策当局者の発言が注目されています。このような環境の下で市場参加者の間では通貨リアルは安定基調が続くという見方が主流になっています。

○南アフリカは、2012年7月に約2年ぶりに利下げを行なっています。その後は政策金利を据え置いています。景気・インフレ・対外収支それぞれのバランスを考慮しつつ、様子を見ているようです。これまで欧州問題に際しても個人消費は比較的堅調でしたが、足元で発生した大規模ストライキによる国内景気への影響が懸念されている中で通貨ランドは弱含んでいます。市場参加者の間では、今後ストライキが落ち着くとの見方がある一方、構造的な経済バランスの不安定さへの警戒感が続いています。

以上

【分配金のお知らせ】

【ファンドの特色】

- 「野村日本ブランド株投資(通貨選択型)」は、投資する外国投資信託において為替ヘッジ手法の異なる7つのコース(円コース、豪ドルコース、ブラジルリアルコース、南アフリカランドコース、トルコリラコース、資源国通貨コース、アジア通貨コース(各コースには「毎月分配型」、「年2回決算型」があります。))およびマネープールファンド(年2回決算型)の15本のファンドから構成されています。

※ファンド名にある「日本ブランド株」とは、グローバルで高い競争力を持つ日本企業の株式を指します。

- 各コース(マネープールファンドを除く7つのコースを総称して「各コース」といいます。)

◆【円コース】

中長期的な信託財産の成長を図ることを目的として運用を行いません。

【豪ドルコース、ブラジルリアルコース、南アフリカランドコース、トルコリラコース、資源国通貨コース、アジア通貨コース】

高水準のインカムゲインの確保と中長期的な信託財産の成長を図ることを目的として運用を行いません。

- ◆わが国の株式を実質的な主要投資対象*とします。

※「実質的な主要投資対象」とは、外国投資信託や「野村マネー マザーファンド」を通じて投資する、主要な投資対象という意味です。

- ◆円建ての外国投資信託「ノムラ・マルチ・カレンシー・ジャパン・ストック・リーダーズ・ファンド」および国内投資信託「野村マネー マザーファンド」を投資対象とします。

・「ノムラ・マルチ・カレンシー・ジャパン・ストック・リーダーズ・ファンド」には、為替ヘッジ手法の異なる7つのコースがあります。

各コース	各コースが投資対象とする外国投資信託の為替ヘッジ手法
円コース (毎月分配型) / (年2回決算型)	円建て資産に対し、為替ヘッジを行いません。
豪ドルコース (毎月分配型) / (年2回決算型)	円建て資産を、原則として対豪ドルで為替ヘッジを行いません。
ブラジルリアルコース (毎月分配型) / (年2回決算型)	円建て資産を、原則として対ブラジルリアルで為替ヘッジを行いません。
南アフリカランドコース (毎月分配型) / (年2回決算型)	円建て資産を、原則として対南アフリカランドで為替ヘッジを行いません。
トルコリラコース (毎月分配型) / (年2回決算型)	円建て資産を、原則として対トルコリラで為替ヘッジを行いません。
資源国通貨コース (毎月分配型) / (年2回決算型)	円建て資産を、原則として対資源国通貨(ブラジル、オーストラリア、南アフリカの3カ国の通貨バスケット)で為替ヘッジ*を行いません。
アジア通貨コース (毎月分配型) / (年2回決算型)	円建て資産を、原則として対アジア通貨(中国、インド、インドネシアの3カ国の通貨バスケット)で為替ヘッジ*を行いません。

※保有する円建て資産の3分の1程度ずつ各通貨への実質的なエクスポージャーをとります。

- ◆通常の場合においては、「ノムラ・マルチ・カレンシー・ジャパン・ストック・リーダーズ・ファンド」への投資を中心とします*が、投資比率には特に制限は設けず、各投資対象ファンドの収益性および流動性ならびにファンドの資金動向等を勘案のうえ決定することを基本とします。

※通常の場合においては、「ノムラ・マルチ・カレンシー・ジャパン・ストック・リーダーズ・ファンド」への投資比率は、概ね90%以上を目処とします。

- ◆各コースはファンド・オブ・ファンズ方式で運用します。

●マネープールファンド

- ◆安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行いません。

- ◆円建ての短期有価証券を実質的な主要投資対象*とします。

※「実質的な主要投資対象」とは、「野村マネー マザーファンド」を通じて投資する、主要な投資対象という意味です。

- ◆「野村マネー マザーファンド」への投資を通じて、残存期間の短い公社債やコマーシャル・ペーパー等の短期有価証券への投資により利息等収益の確保を図り、あわせてコール・ローンなどで運用を行なうことで流動性の確保を図ります。

- ◆ファンドは「野村マネー マザーファンド」を通じて投資するファミリーファンド方式で運用します。

- 「野村日本ブランド株投資(通貨選択型)」を構成する「毎月分配型」のファンド間および「年2回決算型」のファンド間でスイッチングができます。

●分配の方針

◆毎月分配型

原則、毎月22日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行いません。分配金額は、分配対象額の範囲で委託会社が決定するものとし、原則として配当等収益等を中心に安定分配を行いません。ただし、基準価額水準等によっては売買益等が中心となる場合があります。

また、毎年4月および10月の決算時には、基準価額水準等を勘案し、上記安定分配相当額のほか、分配対象額の範囲内で委託会社が決定する額を付加して分配する場合があります。

※「原則として配当等収益等を中心に安定分配を行なう」方針としていますが、これは、運用による収益が安定したものになることや基準価額が安定的に推移すること等を示唆するものではありません。また、基準価額水準、運用の状況等によっては安定分配とならない場合があることにご留意下さい。

◆年2回決算型

・各コース

原則、毎年4月および10月の22日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行いません。

分配金額は、分配対象額の範囲で、原則として配当等収益等および基準価額水準等を勘案して委託会社が決定するものとします。

・マネープールファンド

原則、毎年4月および10月の22日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行いません。分配金額は、原則として基準価額水準等を勘案して委託会社が決定します。

*委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

【分配金のお知らせ】

【投資リスク】

各ファンド(「マネープールファンド(年2回決算型)」を除く)は、投資信託証券への投資を通じて、株式および債券等に実質的に投資する効果を有しますので、当該株式の価格下落、金利変動等による当該債券の価格下落や、当該株式の発行会社および当該債券の発行体の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。また各コース(円コースを除く)は、投資対象とする外国投資信託において円建て資産を対各通貨でそれぞれ為替ヘッジを行ないますので、為替の変動により基準価額が下落することがあります。

「マネープールファンド(年2回決算型)」は、債券等を実質的な投資対象としますので、金利変動等による組入債券の価格下落や、組入債券の発行体の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

【お申込メモ】

- 信託期間 平成31年6月23日まで
円コース、豪ドルコース、ブラジルレアルコース、南アフリカランドコース、トルコリラコース、マネープールファンド 平成21年4月23日設定
資源国通貨コース、アジア通貨コース 平成23年1月17日設定
- 決算日および収益分配 【毎月分配型】年12回の決算時(原則、毎月22日。休業日の場合は翌営業日)に分配の方針に基づき分配します。
【年2回決算型】年2回の決算時(原則、4月および10月の22日。休業日の場合は翌営業日)に分配の方針に基づき分配します。
ご購入申込日の翌営業日の基準価額
1万口以上1万口単位(当初元本1口=1円)
または1万円以上1円単位
なお、「マネープールファンド」は、「年2回決算型」の他のファンドからのスイッチング以外によるご購入はできません。
※ご購入単位は販売会社によって異なる場合があります。
- ご購入価額
- ご購入単位
- ご換金価額 【各コース】
ご換金申込日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額
【マネープールファンド】
ご換金申込日の翌営業日の基準価額
- スイッチング 「毎月分配型」のファンド間および「年2回決算型」のファンド間でスイッチングが可能です。
*販売会社によっては、一部または全部のスイッチングのお取扱いを行わない場合があります。
- お申込不可日 各コースは、販売会社の営業日であっても、下記に該当する場合には、原則、ご購入、ご換金、スイッチングの各お申込みができません。

円コース、豪ドルコース、ブラジルレアルコース、南アフリカランドコース、トルコリラコース、資源国通貨コース	○申込日当日が以下のいずれかの休業日と同日の場合または12月24日である場合 ・ニューヨークの銀行 ・ロンドンの銀行 ・ルクセンブルクの銀行 ・サンパウロの銀行(ブラジルレアルコースのみ) ・ブラジル商品先物取引所(ブラジルレアルコースのみ)
アジア通貨コース	○申込日当日が以下のいずれかの休業日と同日の場合または12月24日である場合 ・ニューヨークの銀行 ・ロンドンの銀行 ・ルクセンブルクの銀行 ・ジャカルタの銀行 ○申込日当日が、中国またはインドの連休等で、ご購入、ご換金の申込みの受け付けを行わないものとして委託会社が指定する日の場合

- 課税関係 個人の場合、原則として分配時の普通分配金ならびに換金時(スイッチングを含む)および償還時の譲渡益に対して課税されます。なお、税法が改正された場合などには、内容が変更になる場合があります。

◆お申込みは

野村証券

商号:野村証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第142号
加入協会:日本証券業協会/一般社団法人日本投資顧問業協会/
一般社団法人金融先物取引業協会/一般社団法人第二種金融商品取引業協会

◆設定・運用は

野村アセットマネジメント

商号:野村アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号
加入協会:社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会

【当ファンドに係る費用】

(2012年10月現在)

◆ご購入時手数料	ご購入価額に3.15%(税抜3.0%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 <スイッチング時> 販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 なお、「マネープールファンド」へのスイッチングの場合は無手数料 ※詳しくは販売会社にご確認ください。
◆運用管理費用(信託報酬)	【各コース】 ファンドの純資産総額に年0.924%(税抜年0.88%)の率を乗じて得た額が、お客様の保有期間に応じてかかります。 ○実質的にご負担いただく信託報酬率 年1.624%程度(税込) ※各コースのファンドが投資対象とする外国投資信託の信託報酬を加味して、投資者が実質的に負担する信託報酬率について算出したものです。 【マネープールファンド】 ファンドの純資産総額に年0.5775%(税抜年0.55%)以内(平成24年7月20日現在年0.021%(税抜年0.02%))の率を乗じて得た額が、お客様の保有期間に応じてかかります。
◆その他の費用・手数料	組入価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、ファンドに関する租税、監査費用等がお客様の保有期間中、その都度かかります。 ※これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。
◆信託財産留保額 (ご換金時、スイッチングを含む)	【各コース】 1万口につき基準価額に0.3%の率を乗じて得た額 【マネープールファンド】 ありません。

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に
応じて異なりますので、表示することができません。
※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

ファンドの基準価額等についてのお問い合わせ先:野村アセットマネジメント株式会社

★サポートダイヤル★ ☎0120-753104
(受付時間)営業日の午前9時~午後5時



★インターネットホームページ★
<http://www.nomura-am.co.jp/>



★携帯サイト★
<http://www.nomura-am.co.jp/mobile/>